

総合的な学習の時間（ヒューマンセミナー）学習指導案

日 時 令和3年 5月28日（金）公開授業②
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年B組35名
会 場 3B3C教室
授業者 中村正成

1 単元名

地域課題解決に向けたプロジェクト「SSS」

2 単元について

(1) 生徒観

生徒は2年次に『地域と関わる』とはどのようなことか～岩手に視野を広げて～の共通学習課題のもと、岩手の基幹産業である第一次産業にスポットを当て、それぞれの地域で農業を営みながら様々な地域課題に挑む方々を訪問し、農業体験を共に行ったり経営者にお話を伺ったりして、第一次産業における様々な諸問題やそれに対する課題解決の考え方について学んできた。農業を取り巻く厳しい環境をおさえながら、経営者の方々が知恵を出し様々な人々とつながりながらその解決に向かう姿勢から、共通学習課題に対する地域課題について考えを深めることができた。

一昨年度に行った校内研で、地域課題解決のために活動を行う上で優先する視点として生徒が挙げたものは、「実現可能性が高い」、「自分たちの力や得意なことが生かせる」、「自分たちの興味・関心が高い」であった。勿論これらは地域課題解決のための活動を行う上で大切なモチベーションとなる視点ではあるが、原点に立ち返り、実行することで多くの人々が恩恵を受けるということ、また喫緊性が高いために取り組むべき価値があるといった視点にも目を向けさせながら活動を計画・立案・実行させ、共通学習課題に対する考えを深めさせたい。

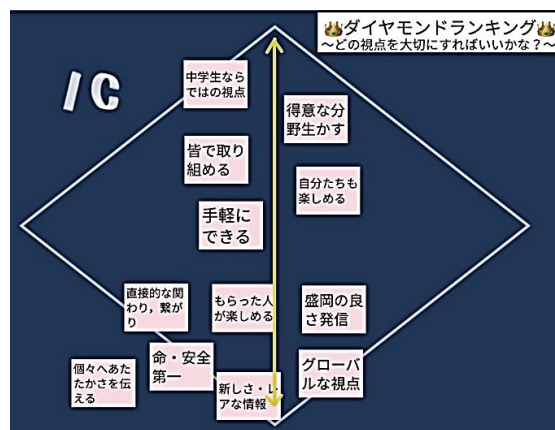


図 1年次に生徒が考えた地域課題解決のために大切な視点

(2) 教材観

昨年度の学習を受け、今年度は『地域と共に生きる』とはどのようなことか～「今の私」ができる地域課題解決～という共通学習課題のもと学習を進めている。この共通学習課題に向けて、3学年では大きく「学習旅行」と「地域課題解決プロジェクト（Sustainable Students' Solution、通称SSS）」の二つの学習活動を設定した。前者は岩手県沿岸南部に赴き、未曾有の大震災に対してわが岩手県はどのように立ち向かっていったか、また震災から10年経った現在の課題は何なのか、そしてどのように課題解決に向かおうとしているかを現地の方々との交流を通して学ぶもので、6月下旬に計画している。後者は、岩手県内における地域課題を資料や調査をもとに分析・把握し、その具体的な解決方法を計画・立案し、グループで活動を展開することで地域課題解決を図るものである。実際に10月頃にグループで任意の場所に赴き、地域課題解決につながるような活動を行う予定である。この学習活動により、他教科で学んだ資料の分析・活用の仕方を活用しながら課題を把握し、その解決に向かうとともに、学習成果をまとめ表現する力、グループで協働的に取り組むことで考えを再構成したり合意形成を図る力、そして実社会から課題を見出し積極的に自らが主体となって社会に参画しようとする態度を養うことを狙っている。さらに活動を通して、自分がこの先どのように地域と関わりあいながら生きていくか、本校の学校教育目標である「よく考え、誠をもって働く人間」に近づくにはどうあればよいかを考えさせていきたい。

(3) 領域研究との関わり（指導観）

① 総合的な学習の時間における「育成を目指す資質・能力」

- ア 探究的な見方・考え方を働かせて、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、根拠を明らかにしてまとめ表現する力。（思考力等）
- イ 探究的な学習に、互いのよさを生かしながら共働的に取り組むことを通して、考えを再構築したり、合意形成を図ったりする力。（協調性等）
- ウ 実社会や実生活かの中から問いを見出す力。積極的に社会に参画しようとする態度。（主体性等）

② 研究の視点

ア 主体的・対話的で深い学び

SSSの学習では、プロジェクトのためのグループを作り、協働的に課題解決を目指すこととしている。グループ作成の際には、予めどのような活動を行いたい、またどのようなことに関心があるかを事前に調査をし、実現可能性も考慮しながら「伝統文化」や「観光」などの内容上で7種類に分類した。そしてできるだけ自分が興味を持ち力が発揮されるよう配慮してグループ分けを行った。また、地域課題の把握に関してはこちらからあえて課題を提示せず、自分たちの力で資料を探したり取材させたりして取り組むべき課題を設定させた。これにより、自らがより主体的に学習に向かうことを狙っている。加えて、地域課題に対する方策を考える際にも、初めから一つの方策に絞って考えるのではなく、生徒の多くのアイデアが反映されるように、複数の方策を組み合わせたり方策のデメリットを工夫によって改善したりして、複数人で協働的に思考するからこそできる取り組みを考えさせたい。

対話の方法については、他教科で行っている話合いの仕方を応用・発展させながら指導を行った。小学校での学習を生かしながらも、特に、国語科との関連を意識しながら学習を展開したい（詳細はウ）。

イ 情報・情報技術の効果的な活用

本学年では、昨年度から理科や数学などで積極的にiPadを用いた授業を行っており、生徒は扱いに慣れている。これまでの総合的な学習の時間においても、様々なサイトにアクセスして情報を得たり、伝えたいことを教育支援アプリにまとめてプレゼンをしたり、思考を整理するために思考ツールを活用して自分の考えをまとめたりするなどの活動を行ってきた。本単元においても、課題の把握のために情報を集めたり、プレゼンの資料を作成したりする際に思考ツールや様々なソフトを積極的に活用していきたい。また、メールも活用できることから、活動において協力を仰ぎたい機関や人物に対して質問したり連絡したりすることも可能となる。加えて、地域の魅力や自分たちの活動を配信するといった活動に活用することも考えられる。情報源や著作権などに留意しながら、自分たちの活動がより主体的かつ効果的に行うことができるよう一人一台端末の良さを生かしながら学習を展開していきたい。

ウ 小中連携を生かしたカリキュラム・マネジメント

附属小学校でも地域にスポットをあてた学習を展開している。特に6年生では卒業研究として自分の興味・関心に合わせながら課題を設定し、探究して学習の成果を報告する機会を設けている。中学校ではこれらの学習を想起させながら、より各教科で培った見方・考え方を働かせて課題を把握し、グループで他者と協力しながらその解決に向けた取り組みを立案・実行させたい。また、その過程を通して、社会参画を視野に入れた自分の生き方を考える契機とさせたい。

また、小学校では「発表する」「発表を聴く」「質問を出す」「質問に答える」などの表現スキルを身に付けている。中学校では、これらをもとにしながらより相手を意識した「議論する」「議論をコーディネートする」といった表現スキルが求められる。この表現スキルは本領域のみで育成を図るものではなく、国語や英語などの教科を中心として横断的に指導するものである。本単元においては、国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の3学年のA「話すこと・聞くこと」のA「目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること」、イ「自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること」と関連させ、国語科での単元の配置を工夫して教科横断的な指導を図りたい。

3 単元計画

(1) 単元目標

岩手県のような地域の調査活動を通して、その地域の特徴や課題をとらえ、その解決の方法について深く考え実践するとともに、自ら進んで協働的に活動し、自分の生き方に生かそうとすることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 調査活動を通して、地域には様々な課題があり、様々な人々が関わり合いながらその解決に向けて尽力していることを理解している。 ② 調査活動を目的に応じて適切に行っている。	① 資料などを活用・分析しながら地域課題を適切にとらえ、その解決に向けて見通しをもった計画を立案し、実行している。 ② 調査内容を相手や目的を意識してICT機器等を活用しながら分かりやすくまとめたり表現したりしている。	① 自分や他者の意見や考えの良さに気づきながら、課題の解決に向けて協働的に取り組もうとしている。 ② 地域課題解決に向けた取り組みを通して、自分の生き方について深く考えようとしている。

(3) 指導の計画 (45時間)

次	学習活動	関連する評価の観点			・評価方法
		知技	思考	態度	
1	(1)岩手県を取り巻く地域課題について自ら調査する。	①			・学習シート
	(2)グループで解決を図りたい地域課題を決定し、その現状について調査する。	②		①	・学習シート ・グループ活動の様子
	(3)地域課題解決のための方策を考える。		①	①	・学習シート ・グループ活動の様子
	(4)地域課題の現状や現時点で考える解決のための方策をクラスメイトに伝え、改善案を考える。(本時)		①		・グループ活動の様子 ・学習シート
2	(1)第1次をもとに、追調査をしたり解決の方策について修正したりして、SSS実行のための計画を立てる。	②	①		・学習シート ・グループ活動の様子
	(2)訪問先との連絡や調整を図るなど、事前準備を行う。	①	①		・グループ活動の様子
	(3)学習旅行で訪問先の生徒にSSSについてプレゼンする。		②		・プレゼン
3	(1)SSSの計画を現地に赴き実行する。		①	①	・活動の様子
	(2)活動を振り返り、活動内容をプレゼンソフト等にまとめる。		②		・学習シート
	(3)文化祭で活動について報告する。		②	②	・報告の内容

4 本時について

(1) 指導目標

現時点での自分たちのグループのSSSについてクラスメイトに伝えさせ、交流させながら課題のとらえ方や課題解決に向けた方策について見直させ、改善案を考えさせる。

(2) 評価規準

資料などを活用・分析しながら地域課題を適切にとらえ、その解決に向けて見通しをもった計画を立案し、実行している。(思考・判断・表現)

(3) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 3	1. 前時までのグループのまとめた内容について確認する。 (3分) 〔SSSの構想に入れるべき内容〕 ①グループにおけるプロジェクト名 ②解決に向かおうとしている地域課題 ③②が地域課題であることを示す根拠 ④現時点でグループが考える地域課題解決に向けた方策 ⑤④についてどのようにその効果を検証するか ⑥助言や協力を仰げそうな機関や人物	・①については課題追及を意識して疑問形の形にまとめたい。 ・③については単なる資料提示にとどまらず、それをどのように解釈しているかを示し、その課題がどのくらい重要度が高いかを説明できるとよい。
	2. 学習課題を確認する。 現時点でのSSSの構想を交流し、自分たちの計画に生かそう	
	3. グループの構想を発表し合う。 (交流Ⅰ 10分、全体 5分、交流Ⅱ 10分) ①グループのうち半数(2~3人)がその場に残り、自分たちのグループの発表を行う。 ②グループの他のメンバーは被らないように他のグループの発表を聴きに行く。 ③発表側はiPadを用いながら構成等に気を付けて分かりやすくSSSの内容を伝える(5分)。 ④質問側は発表を聴き、質問をしたり助言をしたりする。	・発表側は国語科での学習をもとにしながら、〔SSSの構想に入れるべき内容〕の①~⑥の順序を入れ替えるなどして論理の展開を考えて構成を意識しながらプレゼンを行う。 ・質問する側は発表前にスライドを事前に読み、質問を考える。 ・机間巡視をしながら、話し合いによってSSSの構想がさらに改善されそう

<p>展 開 42</p>	<p>(5分)</p> <p>⑤ 1回目の発表が終わった時点でどのような質問を受けたかを全体で確認し、2回目の発表では上記に加えてその視点でも発表を聞き、質問をするように促す。(5分)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[質問側の質問・助言の視点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決に向かおうとしている地域課題が、グループの示す根拠と照らし合わせて妥当性があるか。 ・グループの示す根拠は適切か。 ・グループで考える地域課題解決の方策が有効か。 ・課題や魅力を宣伝するだけに留まらず、自分達が活動に関わっているか。 ・グループの活動をさらに有効に行う助言はないか。 </div> <p>4. 3で仕入れた情報について自分のグループのメンバーに伝え合う。(5分)</p> <p>5. 任意のグループを取り上げ、地域課題解決に向けてどのような視点をもって活動に向かおうとしているかをおさえる。(5分)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[地域課題解決に向けて大切にしたい視点]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※・はこれまで多くの生徒が抱いている視点。 ○は交流を通して新しく気づかせたい視点。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの興味・関心が高い。 ・自分たちの力や得意なことが生かせる。 ・実現可能性が高い。 ○多くの人々の幸せにつながる。 ○大人やその地域の人々も含めてみんなが関われる。 ○その土地の強みを生かせる。 ○モデルケースから考える。 ○単体ではなく、様々なものを掛け合わせる。 ○対象を意識して活動を考える。 ○持続可能性が高い。 </div> <p>6. 3～5の活動をもとに、自分たちのグループの構想に対する修正を図る。(7分)</p>	<p>なグループをチェックする(全体で取り上げる)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問がうまくできないところには、[質問側の質問・助言の視点]に照らし合わせて話すように促す。 ・1回目の交流終了時点で、どんな質問が出されたかを確認し、[地域課題解決に向けて大切にしたい視点]に気づかせ、2回目の交流時はその視点でも発表を聞き、質問するように促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの興味や関心を超えて、より広い視野で地域課題解決に向かっていく視点に気づかせ、自分達のSSSの計画のブラッシュアップに役立たせたい。 ・状況によって他クラスのグループの発表や各地域の取り組みを提示して、どのような視点で地域課題解決に向かっていくかを考えさせる。 ・自分たちの考えた方策が[地域課題解決に向けて大切にしたい視点]のどれを意識したものかを振り返らせ、構想を再検討させる。構想の改善のための助言を適宜行う。 ○資料などを活用・分析しながら地域課題を適切にとらえ、その解決に向けて見通しをもった計画を立案し、実行している。(グループ活動の様子、学習シート) <ul style="list-style-type: none"> ・思考ツール等を用いて、グループの構想を整理し見える化を図る。
<p>終 結 5</p>	<p>7. 本時の学習を振り返りながら、今後の方向性をまとめる。(5分)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[期待する振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループの発表では、地域の強みである○○と、自分達が考えた△△を組み合わせる構想していた。もう少し地域の魅力を掘り下げて、それを生かせるような方策を考えたい。 ・質問を受けて、自分たちのグループは人を集める活動を考えていたが、どんな人を集めるかを意識していなかった。小中学生を集めたいので、調査し直して対象が楽しめるような活動を再考したい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動においてどのような質問や助言または発表が自分たちの計画の改善に役立ったかに注目してまとめさせる。 ・今後どのようなことをさらに調べてSSSを進めていくかの展望をまとめさせる。